

第3章 課題と今後の方向性及び対策

第3章 課題と今後の方向性及び対策

3-1 エコツーリズムの基本的な考え方

大雪山国立公園でエコツーリズムを推進していく上において、エコツーリズムとエコツアーの概念及びエコツーリズムの理念の整理を行った。

エコツーリズムとは

- 1.自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること。
- 2.観光によってそれらの資源が損なわれることがないよう、適切な管理に基づく保護・保全を図ること。
- 3.地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果が実現することをねらいとする、**環境保全 + 観光振興 + 地域振興の融合をめざす観光の考え方**である。それにより、旅行者に魅力的な地域資源とのふれあいの機会が永続的に提供され、地域の暮らしが安定し、資源が守られていくことを目的とする。

エコツアーとは

エコツーリズムの考え方に基づいて実践されるツアーの一形態。
地域・自然・文化と旅行者の仲介者（ガイド）が存在することが望ましい。

《参考文献：日本エコツーリズム協会 HP、地域からのエコツーリズム》

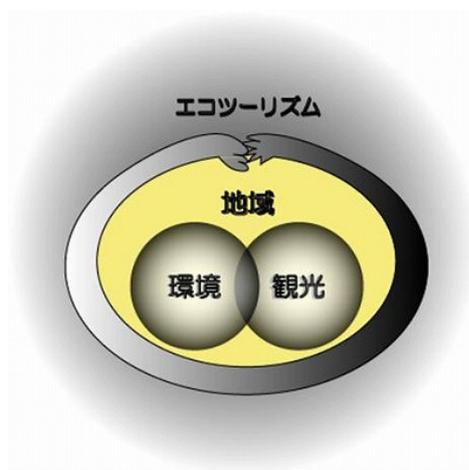


図 3-1-1 エコツーリズム概念図

(出典：環境省 HP より)

エコツーリズムの3つの理念

《環境保全》

- **自然環境への負荷を小さくする**
少人数ツアーの実施、ツアーのルールをつくる、ガイドが同行するなど
- **適切な利用の方法を定める**
自然観光資源が損なわれないよう生物多様性の確保に配慮をした利用の方法を定める
- **順応的な管理を行う**
自然環境の継続的なモニタリングと評価に基づく管理を行う

《観光振興》

- **新しい観光資源の発掘**
観光資源とみなされていなかった自然環境に焦点を当てる
- **観光資源の魅力を向上させる**
ガイドの解説によって自然環境や文化等の魅力に気づく
- **新たな需要を創出する観光**
環境保全活動等のエコツアー企画
(持続可能な観光には環境保全が重要)

《地域振興》

- **関係者のネットワークをつくる**
エコツアーを通じて地域の旅行業者、宿泊業者、飲食業者、運送業者、ガイドなどが結びつくことで、地域の経済循環や新たな雇用が創出
- **地域住民と観光客が集うことによる「にぎわい」の創出**
地域住民と観光客との交流を通じて楽しみ、喜び、賑わいが生まれる
- **地域住民の地元に対する誇りや自信の醸成**
地域住民が地元の良さを知ることによって、地元への愛着と自信が芽生える
- **比較的少ない投資で地域経済の活性化**
既存の地域資源を活かすことにより、比較的少ない投資で地域活性化が望める



3つの理念（考え方）に基づいて地域の課題を改善し、
地域が主体となって持続可能な観光をめざす

3-2 上川地区の課題と方向性

上川地区での意見交換会及び現地調査等から抽出された地域の課題を、「地域資源の資質の保全」、「観光振興」、「地域振興」の観点より整理を行い、エコツーリズムの考え方による解決のための方向性を図 3-2-1 に示す。

(1) 上川地区の課題

上川地区における課題を「地域資源の資質の保全」、「観光振興」、「地域振興」の観点より、以下のとおり整理する。

1) 「地域資源の資質の保全」に関する課題

- 山岳エリアでは登山道や植生の荒廃が進み、景観や自然環境に悪影響が生じ、資源の資質が低下している
- 大雪山国立公園の特殊性を理解し、地域資源の資質(魅力)を損なうことなく、将来にわたり活用できるように資源の保全を図ることが必要
- 利用できなくなった地域資源があり、層雲峡の魅力が減少している
 - ・小函遊歩道(層雲峡の最大観光資源)の崩落による通行止め
 - ・沼の原林道通行止め、雲井ヶ原の木道老朽化、歩道のヤブ化
- 樹木の繁茂により、ビューポイントからの眺望を阻害している
 - ・夏場は、銀河・流星の滝が駐車場から見えない
- 一部のエリアや時期に利用が集中し、自然環境への悪影響、質の高い自然体験を得られないことがある

2) 「観光振興」に関する課題

- 情報発信の改善
 - ・情報集約と発信の一元化
 - ・外国人観光客の増加への対応(冬期の観光への関心が高い)
 - ・インターネットで現地情報を収集する人が多いものの十分な情報を得られない
- 利用者の旅行形態の変化に対応した、団体向けの温泉地(マストツアーの宿泊地)からの方向転換
 - ・家族や小グループの割合が増加し、従来型のパッケージツアーは減少している一方、格安のフリープランのツアーが増えている
- 層雲峡での利用者の滞在時間を延ばす
 - ・「山さんぽ事業」などガイド付モニターツアーを実施し、参加者がブログで情報を発信するなど、資源の発掘と新たな広報を試みている
- 地元在住のガイドがない
 - ・冬期にガイドの仕事がなく生業とするのが難しいため地元ガイドが育たない。
 - ・継続的にツアーや観察会を行うには、ガイドの養成やガイドの人材センターが必要

- ・自然観察（ガイド付きツアー）のニーズがあり、ガイド付ツアーの価格設定が課題

- 大雪山の玄関口としてのイメージづくり

- ・層雲峡温泉に山のイメージがない、大雪山国立公園のイメージアップ

- 層雲峡温泉に子どもが遊べる場所（フィールドアスレチック等）をつくる

- 春先にヒグマが出没するので、安全面の対策が必要

- 現在通行止めの小函の活用方法とその体制づくり

- 地域で観光素材発掘の取組み

- ・新たな観光資源を発掘し、それを活用していく

- ・一般向けではない歩道の活用（朝陽山等への縦走路として活用）

3) 「地域振興」に関する課題

- 上川町民に層雲峡温泉について知ってもらう

- コスト面と食品加工業者がないことから、地産地消がすすまない

- 上川町内と層雲峡温泉の結びつきが弱く、地域経済への波及効果が少ない

- 地域外の旅行業者が企画するツアーは、地域へのメリットが少ない

- 層雲峡から三国峠を通るルートの活用（他地域との連携、帯広などの都市部から利用客の呼び込み）

(2) 上川地区の方向性

上川地区における課題について、エコツーリズムの考え方による解決のための方向性を示す。

1) 「地域資源の資質の保全」に関する方向性

- 魅力的な資源を発掘する

- ・研究者や来訪者のアドバイスを参考に、これまで注目されていなかった大雪山国立公園ならではの資源の魅力を知り、活かす

- 資源の価値と現状を地域の人を知り、行動する

- 利用者の分散を図り資源への負荷を軽減する

- ・利用者が集中し荒廃している箇所への負荷が減り保全される

- ・交通ネットワークの充実、現地の生情報の提供、ヤブ化した歩道の刈り払いなどによって、旅行者の行動エリアを広げ利用の分散を図る

- ガイドの解説によって資源（環境）保全の必要性に気づいてもらう

- ・何気ない行動が荒廃につながることを来訪者に知らせ、自然環境や保全について観光客に理解してもらう

2) 「観光振興」に関する方向性

- 人の交流・出会いを創出する
 - ・人との交流をとおり、地域の人“おもてなし”の心を醸成する
 - ・温泉街に近い層雲峡園地等を利用し、交流や出会いの機会を創出する
 - ・観光客だけではなく、町民も楽しむことができる
- ガイドが解説することで地域資源の付加価値を高める
 - ・観光客は期待以上の満足が得られ、リピーターの増加につながる
 - ・層雲峡エリアに新たな観光スタイルを生み出す
 - ・地域イメージの向上につながる
- 層雲峡での滞在時間を延ばす
 - ・歩く、観察する、つくるなど、層雲峡を拠点にした時間を要するプログラムを提供する
 - ・現地申込みが可能な短時間のガイド付きツアーを行い、個人客やフリープランのツアー客のニーズに応える
- 地域イメージの向上とPR
 - ・大雪山系の登山口であることをアピールし、地域イメージの転換を図る
 - ・山岳エリアの環境保全活動など、社会的に注目されるオリジナリティがある活動に地域で取組む。マスコミ等の取材対象となることで地域イメージが向上する
 - ・周辺市町と連携して大雪山国立公園全体の取組みとし全国に向け発信する
 - ・外国人観光客にもわかる多言語による標識整備
- 情報発信の改善
 - ・観光協会のホームページのリニューアルなど、情報の集約と広報の強化
 - ・外国人観光客のニーズに合う情報の提供

3) 「地域振興」に関する方向性

- 地域経済が潤うしくみを考える
 - ・地域でツアー企画を立て実施することで収益性を高める
 - ・地域でツアーをマネジメントできるしくみをつくる
 - ・地域イメージのマイナスとなる“さびれた施設”を改善する
- 地域住民が参加できる取組みを行う
 - ・来訪者との交流や出会いの機会をつくり、町民にも参加してもらう
 - ・町民向けのツアーやイベントを、層雲峡を拠点として行う

上川地区の現状と課題

【地域資源の資質の保全】

- 山岳エリアでの登山道や植生の荒廃の進行、景観や自然環境への悪影響による資源の資質の低下
- 持続可能な利用のため大雪山国立公園の特殊性を理解した資源の資質の保全
- 地域資源が利用できなくなり層雲峡の魅力が減少
 - ・ 小函遊歩道（層雲峡の最大観光資源）の崩落による通行止め
 - ・ 沼の原林道通行止め、雲井ヶ原の木道老朽化、歩道のヤブ化
- 樹木の繁茂によるビューポイントからの眺望の阻害
 - ・ 夏場に銀河・流星の滝が駐車場から見えない
- 地域で観光素材発掘の取組み
 - ・ 新たな観光資源を発掘と活用（朝陽山等への縦走路など）
- 利用の集中による自然環境への悪影響、質の高い自然体験を得る機会の喪失

【観光振興】

- 情報発信の改善
 - ・ 情報の集約と一元化
 - ・ 外国人観光客の増加への対応
- 利用者の旅行形態の変化への対応、団体向け温泉地（マストツアー宿泊地）からの方向転換
 - ・ 家族や小グループの割合が増加、従来型のパッケージツアーは減少、格安のフリープランのツアーが増加
- 層雲峡での利用者の滞在時間を延ばす
- 地元在住のガイドがない
 - ・ 冬期にガイドの仕事がなく、地元ガイドが育たない
 - ・ ガイド専門の人材センターが必要
 - ・ ガイド付きツアーのニーズはあり、ツアーの価格設定が課題
- 大雪山の玄関口としてのイメージづくり
 - ・ 層雲峡温泉に山のイメージがない
 - ・ 大雪山国立公園のイメージアップ
- 層雲峡温泉に子どもが遊べる場所をつくる
- 春先にヒグマが出没するので、安全面の対策が必要
- 現在通行止めの小函の活用方法とその体制づくり

【地域振興】

- 上川町民に層雲峡温泉について知ってもらう
- コスト面と地元で食品加工業者がないことから、地産地消がすすまない
- 上川町内と層雲峡温泉の結びつきが弱く、地域経済への波及効果が少ない。
- 地域外の旅行業者が企画するツアーは、地域へのメリットが少ない。
- 層雲峡から三国峠を通るルートを活用（他地域との連携、帯広などの都市部から利用客の呼び込み）

エコツーリズムの考え方

【地域資源の資質の保全】

- 自然環境への負荷を小さくする
- 適切な利用の方法を定める
- 順応的管理*を行う
（※自然環境の継続的なモニタリングと評価に基づく管理）

【観光振興】

- 新しい観光資源を発掘する
- 観光資源の魅力を向上させる（価値の創出）
- 関係事業者による自主的かつ積極的な取組み

【地域振興】

- 関係者のネットワークをつくる
- 地域住民と観光客が集うことによる「にぎわい」の創出
- 地域住民の地元に対する誇りや自信の醸成
- 比較的少ない投資での地域経済の活性化

解決のための方向性

【地域資源の資質の保全】

- 魅力的な資源を発掘する
 - ・ 研究者や来訪者のアドバイスを参考に、注目されていなかった大雪山国立公園ならではの資源の魅力を知り、活かす。
- 資源の価値と現状を地域の人を知り、行動する
- 利用者の分散を図り資源への負荷を軽減する
 - ・ 利用者が集中し荒廃している箇所の負荷が減り保全される。
 - ・ 交通ネットワークの充実、現地の生情報の提供、ヤブ化した歩道の刈り払いなどによって、旅行者の行動エリアを広げ利用の分散を図る。
- ガイドの解説によって資源（環境）保全の必要性に気づいてもらう
 - ・ 何気ない行動が荒廃につながることを来訪者に知らせ、自然環境や保全について観光客に理解してもらう。

【観光振興】

- 人の交流・出会いを創出する
 - ・ 交流をとおし地域の人のおもてなしの心を醸成する
 - ・ 温泉街に近い層雲峡園地等を利用し交流の機会をつくる
- ガイドが解説することで地域資源の付加価値を高める
 - ・ 来訪者の満足度を高め、リピーターを増やす
 - ・ 層雲峡エリアに新たな観光スタイルを生み出す
 - ・ 地域イメージの向上につながる
- 層雲峡での滞在時間を延ばす
 - ・ 歩く、観察する、つくるなど層雲峡を拠点にした時間を要するプログラムをつくる
 - ・ 短時間のガイド付きツアーで個人客等のニーズに応える
- 地域イメージの向上とPR
 - ・ 大雪山系の玄関口をアピール、地域イメージの転換を図る
 - ・ 山岳エリアの環境保全活動など、オリジナリティある活動に取り組む。マスコミ等の取材対象となりイメージが向上
 - ・ 周辺市町と連携し大雪山国立公園の取組みとしてアピール
 - ・ 外国人観光客にもわかる多言語による標識整備
- 情報発信の改善
 - ・ 観光協会のホームページのリニューアルなど、情報の集約と広報の強化
 - ・ 外国人観光客のニーズに合う情報の提供

【地域振興】

- 「地域経済が潤うしくみを考える」
 - ・ 地域でツアー企画を立て実施することで収益性を高める
 - ・ 地域でツアーをマネジメントできるしくみをつくる
 - ・ 地域イメージのマイナスとなる“さびれた施設”の改善
- 地域住民が参加できる取組みを行う
 - ・ 来訪者との交流や出会いの機会をつくる
 - ・ 町民向けのツアーを層雲峡拠点で行う

3-3 東川地区の課題と方向性

東川地区での意見交換会及び現地調査等から抽出された地域の課題を、「地域資源の資質の保全」、「観光振興」、「地域振興」の観点より整理を行い、エコツーリズムの観点より解決のための方向性を図 3-3-1 に示す。

(1) 東川地区の課題

東川地区における課題を「地域資源の資質の保全」、「観光振興」、「地域振興」の観点より整理した。

1) 「地域資源の資質の保全」に関する課題

- 自然環境資源の荒廃
 - ・ 登山道荒廃などに対する利用者の認識が低い
 - ・ 保全作業に係わるひとのつながりと技術の向上
 - ・ 登山道の人為的荒廃が著しく進んでいる
 - ・ 登山道荒廃状況のモニタリングが十分にできていない
- 利用ルール等の周知徹底
 - ・ エコツーリズムを実施していくうえでのルールづくり
 - ・ 現在国立公園内で行われている活動（山菜取りなど）の扱いについての整理
 - ・ 「登山の心得」など利用マナーが十分に浸透していない
 - ・ 携帯トイレ普及のための下地が十分ではない
- 自然環境の適正な管理
 - ・ 外来種の侵入と対策が必要となっている

2) 「観光振興」に関する課題

- 利用者への情報発信
 - ・ 情報発信が一体化されていない
 - ・ 登山者と観光客の客層の違いへの対応（登山客への十分な情報発信ができていない）
 - ・ 開館時間や動線等の問題によって、ビジターセンターが有効に活用されていない
 - ・ 増加する外国人旅行者に対する情報提供が十分でない（多言語化など）
- 「質の高いガイド」の継続
 - ・ 質の高いガイドを提供する為の体制（ルール）づくりが検討されている
 - ・ ガイド事業者が集まれる場の創出
- アクセス方法（公共交通等）の確保/維持
 - ・ 山岳域への交通手段が限られている
 - ・ アクセス方法（公共交通等）の確保/維持

- 既存地域資源の維持と効果的な PR
 - ・地域資源へのアクセスが十分に確保できていない
 - ・「大雪山国立公園」の魅力が十分に伝わっていない

3) 「地域振興」に関する課題

- 山岳域とまちの連携
 - ・山岳域の雄大な自然資源、平野部の写真/クラフト/グリーンツーリズム等との連携が十分でない
- 地域住民による地元に対する意識の向上
 - ・東川の歴史・文化・自然について地域住民も知らないことがある
 - ・地元ボランティアの集う場所や山岳域におけるやすらぎの場所が少ない
- 若い人たちの雇用創出

4) 全体に関する課題

- 地域関係者が連携/調整する機会がない

(2) 東川地区の方向性

東川町観光地活性化・雇用創造協議会地区における課題について、エコツーリズムの観点より解決のための方向性を示す。

1) 「地域資源の資質の保全」に関する方向性

- 自然環境資源の荒廃
 - ・荒廃が著しく進行している箇所の把握ときめ細やかな対応
- 利用ルール等の周知徹底
 - ・利用マナーの周知方法（周知場所等）の検討や、新たな利用動向に応じたルールや対策（安全対策含む）の検討
- 自然環境の適正な管理
 - ・基礎情報蓄積とモニタリングに応じたきめ細やかな対応

2) 「観光振興」に関する方向性

- 既存地域資源の維持と効果的な PR
 - ・自然観光資源の更なる把握と効果的な提供方法の検討
- 「質の高いガイド」の継続
 - ・将来にわたって質の高いガイドを提供するための体制（ルール）づくりの継続検討
- 外国人旅行者に対する対応
 - ・外国人旅行者に対する情報提供方法の具体的な検討と関係事業者による対策の実施

- 「旬」の情報入手が困難
 - ・ 情報集約方法と提供方法の検討と関係事業者間との情報共有
- アクセス方法（公共交通等）の確保/維持
 - ・ 提供する自然観光資源へのアクセス方法の検討や関係事業者による既存交通手段の維持

3) 「地域振興」に関する方向性

- 山岳域とまちの連携
 - ・ 山岳域と平野部の連携について、「すぐできること（比較的予算を必要としない方法）」を関係者で検討する
- 地域住民による地元に対する意識の向上
 - ・ 地元をよく知ってもらうための情報発信の検討やエコツアーリズムへ参画を促し興味を持ってもらう
 - ・ 山岳域におけるやすらぎの場所(集える場所)をつくる

4) 全体に関する方向性

- 地域関係者が連携/調整する機会がない
 - ・ 目的を共有するための連携/調整の場を設ける

東川地区の現状と課題

【地域資源の資質の保全】

- 自然環境資源の荒廃
 - ・ 登山道の人為的荒廃が著しく進んでいる
 - ・ 登山道荒廃などに対する利用者の認識が低い
 - ・ 保全作業に係わるひとのつながりと技術の向上
 - ・ 登山道荒廃状況のモニタリングが十分にできていない
- 利用ルール等の周知徹底
 - ・ エコツーリズムを実施していくうえでのルールづくり
 - ・ 現在国立公園内で行われている活動（山菜取りなど）の扱いについての整理
 - ・ 「登山の心得」など利用マナーが十分に浸透していない
 - ・ 携帯トイレ普及のための下地が十分ではない
- 自然環境の適正な管理
 - ・ 外来種の侵入と対策が必要となっている

【観光振興】

- 利用者への情報発信
 - ・ 情報発信が一体化されていない
 - ・ 登山者と観光客の客層の違いへの対応（登山客への十分な情報発信ができていない）
 - ・ 開館時間や動線等の問題によって、ビジターセンターが有効に活用されていない
 - ・ 増加する外国人旅行者に対する情報提供が十分でない（多言語化など）
- 既存地域資源の維持と効果的な PR
 - ・ 地域資源へのアクセスが十分に確保できていない
- 「質の高いガイド」の継続
 - ・ 質の高いガイドを提供するための体制（ルール）づくりが検討されている
 - ・ ガイド事業者が集まれる場の創出
- アクセス方法（公共交通等）の確保・維持
 - ・ 山岳域への交通手段が限られている
 - ・ アクセス方法（公共交通等）の確保・維持

【地域振興】

- 山岳域とまちの連携
 - ・ 山岳域の雄大な自然資源、平野部の写真/クラフト/グリーンツーリズム等との連携が十分でない
- 地域住民による地元に対する意識の向上
 - ・ 東川の歴史・文化・自然について地域住民も知らないことがある
 - ・ 地元ボランティアの集う場所や山岳域におけるやすらぎの場所がすくない
- 若い人たちの雇用創出
 - ・ 雇用の場が少ない

【全体】

- 地域関係者が連携/調整する機会がない

エコツーリズムの考え方

【地域資源の資質の保全】

- 自然環境への負荷を小さくする
- 適切な利用の方法を定める
- 順応的管理*を行う
（※自然環境の継続的なモニタリングと評価に基づく管理）

【観光振興】

- 新しい観光資源を発掘する
- 観光資源の魅力を向上させる（価値の創出）
- 関係事業者による自主的かつ積極的な取り組み

【地域振興】

- 関係者のネットワークをつくる
- 地域住民と観光客が集うことによる「にぎわい」の創出
- 地域住民の地元に対する誇りや自信の醸成
- 比較的少ない投資での地域経済の活性化

解決のための方向性

【地域資源の資質の保全】

- 自然環境資源の荒廃
 - ・ 荒廃が著しく進行している箇所の把握ときめ細やかな対応
 - ・ 修復保全作業に関わる人の技術の向上、方法論の共有
 - ・ モニターツアーなどの実施による普及啓発
- 利用ルール等の周知徹底
 - ・ 利用マナーの周知方法（周知場所等）の検討や、新たな利用動向に応じたルールや対策（安全対策含む）の検討
- 自然環境の適正な管理
 - ・ 基礎情報蓄積とモニタリングに応じたきめ細やかな対応

【観光振興】

- 利用者への情報発信
 - ・ 情報を共有化し、発信できる施設・体制の検討
 - ・ 利用者の特性（観光客・登山者等）に合わせた情報発信
 - ・ 情報集約方法と提供方法の検討と関係事業者間での共有
 - ・ 外国人旅行者への情報提供の具体的な検討
- 既存地域資源の維持と効果的な PR
 - ・ 大雪山の環境保全、東川の歴史、アイヌ語などを織り交ぜた土地ならではのエコツアーの開発
 - ・ 自然観光資源の更なる把握と効果的な提供方法の検討
 - ・ 研究者や専門家と連携した、新しい魅力の発掘
- 「質の高いガイド」の継続
 - ・ 将来にわたって質の高いガイドを提供するための体制（ルール）作りの継続検討
- アクセス（公共交通等）の確保・維持
 - ・ 自然観光資源へのアクセス方法の検討や、関係事業者による既存交通手段の維持

【地域振興】

- 山岳域とまちの連携
 - ・ 山岳域と平野部の連携について、「すぐできること（比較的予算を必要としない方法）」を関係者で検討する
- 地域住民による地元に対する意識の向上
 - ・ 地元をよく知ってもらうための情報発信の検討やエコツーリズムへ参画を促し興味を持ってもらう
 - ・ 山岳域におけるやすらぎの場所（集える場所）をつくる
- 若い人たちの雇用創出
 - ・ エコツーリズムの推進で雇用を創出する

【全体】

- 地域関係者が連携/調整する機会がない
- ・ 目的を共有するための連携/調整の場を設ける

3-4 今後の取組みについて

上川地区と東川地区の課題と解決のための方向性からすると、東川地区では、エコツーリズムを推進するための人材育成やモニターツアーなどが行われており、ガイド事業者も参入していることから、さらなる展開を検討している段階である。一方、上川地区は、近年の観光客減少に歯止めをかけようと、観光振興の方策を模索する中、エコツーリズムに関心を持ち始めた段階であり、現時点では地区在住のガイドもいない状況である。

このように両地区では、エコツーリズムへの取組み状況に差があり、課題や方向性も異なることから、それぞれの地区の状況を踏まえた取組みが必要となる。各地区にとって効果的であると考えられる今後の取組み（案）を以下に示す。

(1) 上川地区の今後の取組み

上川地区では、“団体向け温泉地からの方向転換を図る”、“大雪山の登山口としてのイメージづくり”、“層雲峡での滞在時間を延ばす”など、エコツーリズムを推進することによって解決できそうな課題が含まれている。まずは、エコツーリズムの展開による効果を検証する取組みを行い、効果があると評価された場合に、本格的に体制を整え、取組みを行っていくことが望ましい。このような考えに基づき、上川地区における今後の取組み（案）を以下に示す。なお、上川地区では現在、第1段階の取組みが行われている。次ページに第1段階の取組み案を示す。

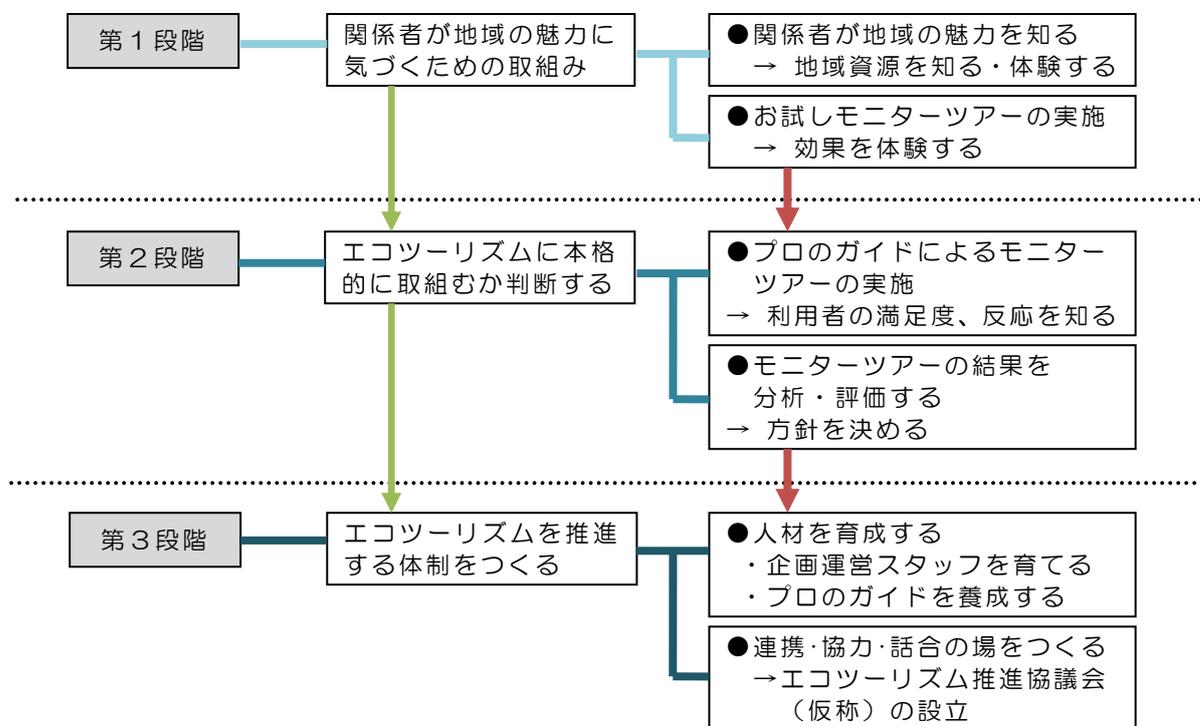


図 3-4-1 上川地区における今後の取組みの流れ

上川地区における具体的取組みの提案

【山麓エリアでの取組み】

■取組み案-1 温泉組合員が案内する早朝自然観察会の実施

【概要】

宿泊者を対象とした「自然観察会」を毎朝実施し、温泉組合員が交代でガイドを務める。
毎朝6時頃集合し、1時間程度行う。参加費は無料。
開催案内は、宿泊施設のフロントやロビー、部屋にチラシ等を置いておく。
申込み不要。参加したい人は当日集合場所に集まる。

【テーマ（案）】：観察会のテーマは日替わりとする。

- ①バードウォッチング（紅葉谷散策路、層雲峡園地など）
- ②クマゲラ生息地の観察（紅葉谷散策路）
- ③小動物の観察（紅葉谷散策路、層雲峡園地など）
- ④巨木を訪れる（紅葉谷散策路）
- ⑤草花を見る（層雲峡園地など）
- ⑥柱状節理の観察（紅葉谷散策路など）
- ⑦石狩川の自然（石狩川の河原）



層雲峡園地



クマゲラ営巢木



カツラの巨木

【やり方】

自然観察会実施前に、温泉組合員等を対象とした研修会を開催する。
研修時に説明のポイントを把握し、研修を受けた人が交代でガイドを務める。（2～3人）

【ねらい・効果】

山麓エリアの地域資源のPRができる。
他地域で実施されているこのような観察会は概ね好評であり、お客様に喜んでいただいている。
温泉組合員の方はお客様が喜んでいただくことが実感でき、ガイドをすることに満足感と楽しみが得られる。
お客様との交流が生まれ、お客様の満足度が高まるとともに、地域に活気が生まれる。
将来的にエコツアーの企画につながるアイデアが生まれる可能性あり。

【効果の検証方法】 ツアー参加者および温泉組合員へのアンケート

【山岳エリアでの取組み】

■取組み案-2 厳しい気象条件下で形成された大雪山の自然を学び保全を考えるモニターツアー

【概要】

稜線に形成された構造土、火山性草原、遅くまで雪が残る雪田草原、湿原や沼など、火山活動や厳しい気象条件下で形成された大雪山の
特徴的な自然について学ぶとともに、荒廃が進行している箇所にも訪れ、環境保全の必要性についての認識を深める。
地域関係者及び周辺地域在住者を対象とする。参加者8名程度。参加費は無料。

ルート（案）

銀泉台→第一花苑等（雪田草原）→コマクサ平（火山性草原）→赤岳→構造土群→白雲避難小屋→緑岳→高原温泉（沼めぐりコース修復状況）
早朝集合場所に集まり、全員で移動。

【やり方】

ガイド付きのツアーとし、大雪山の自然を学びながら、荒廃の進行状況を確認する。
時間があれば、高原温泉の沼めぐりコースで石組による流水コントロールの整備事例を見る。

【ねらい・効果】

大雪山国立公園の自然環境の特殊性を見るときともに、脆弱で荒廃が進行しやすいことを理解していただき環境保全意識の啓発を図る。
参加者が将来的に環境保全活動の核として係わっていくことを期待する。
モニターツアーを通して交流が生まれ、ネットワークができる。
将来的にエコツアーの企画につながる可能性もある。

【効果の検証方法】 ツアー参加者へのアンケート、モニターツアー後にネットワークが形成されたか、取組みが次のステップに継続しているか



荒廃した登山道（雪田）



構造土群



荒廃した登山道（稜線）



石組による流水コントロール

(2) 東川地区の今後の取組み

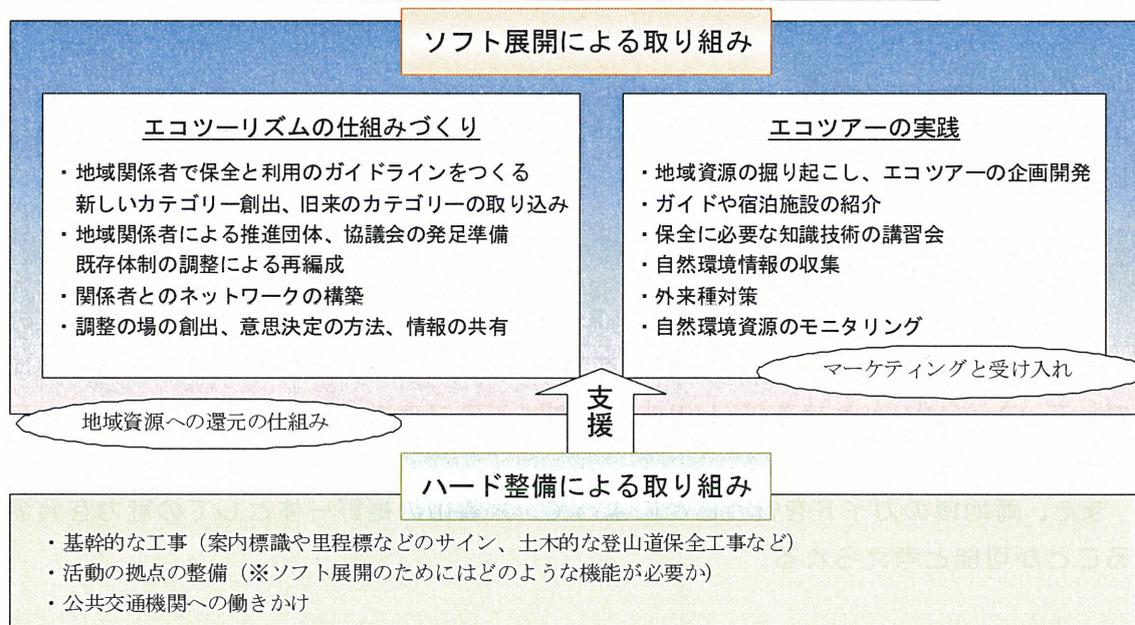
東川地区では、東川町や東川町観光地活性化・雇用創造協議会が中心となって、3年ほど前からエコツーリズムの展開にむけて人材育成やエコツアーのモニターツアー等の取組みが行われており、その結果、エコツアーの企画や運営ができるスタッフが育ってきている。東川地区の意見交換会でも、次のステップにむけてエコツーリズムの仕組みづくりとして、「保全と利用のガイドラインをつくる」、「地域関係者による推進団体、協議会の発足準備」などが挙げられており、次のステップへの取組みを行う段階であると考えられる。

このような状況を踏まえ、東川地区におけるエコツーリズム推進に向けた今後の取組みを以下に整理するとともに、意見交換会での議論を反映した「東川版のエコツーリズムの要素」及び「エコツーリズム推進協議会（仮称）の構成メンバーの案」を示す。

東川地区では今後、『エコツーリズム推進協議会（仮称）』の設立、「保全と利用のガイドラインづくり」にむけて、関係者が集まって話し合う場を継続して設けていくことが必要である。

エコツーリズム推進に向けた取組み（案）（東川地区）

エコツアーを創出し実践する仕組みをつくる



東川版エコツアーに必要な要素

- ・ 自然資源を保全する活動を行うもの
- ・ 地域産業と関わりをもつこと（食事、温泉、お土産等）
- ・ 少人数で催行されていること
- ・ 有資格者によるツアーであること
- ・ 地域の文化・歴史の紹介を行うこと

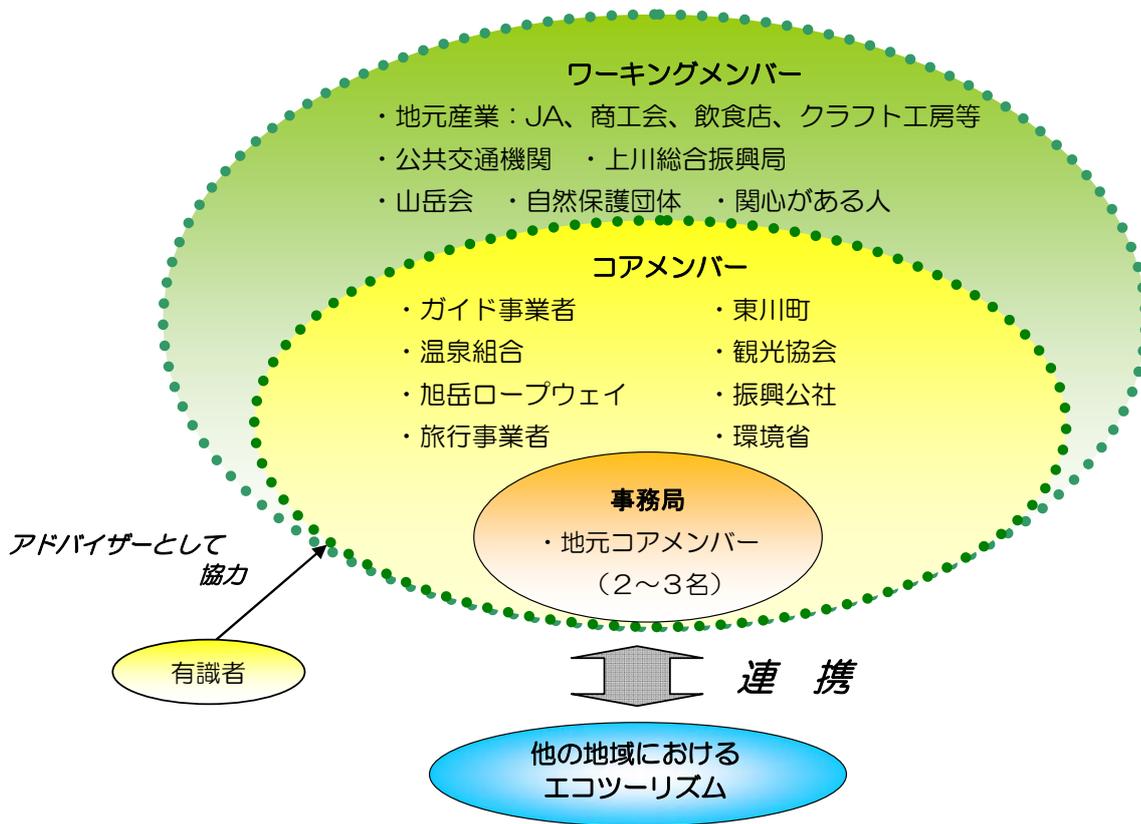


図 3-4-3 仮称・東川エコツーリズム推進協議会の構成(案)

3-5 上川・東川両地区での連携

エコツーリズムの推進における、上川・東川の両地区での連携が可能と考えられる取組みを以下にまとめた。

●ガイド登録システムの運用

上川・東川地区共同でガイド登録システムをつくり、地元在住のガイドが不在の上川地区においてもガイドツアーの促進を図る。当初は東川在住のガイドによる両地域のガイディングが中心となるが、上川在住のガイド事業者の養成を図っていくことも目的とする。

また、両地域のガイドを行うことによって、大雪山の裾野一体としての魅力を発信することが可能と考えられる。

●上川地区のガイド養成

東川地区のガイドが講師となり、上川地区のガイドの養成を行う。また併せて上川版ガイド養成テキストの作成も行う。講師の謝礼、交通費等が発生するため、行政等の支援が必要である。

●合同会議の実施

年数回、上川・東川の関係者が集まり、互いの地区の課題や取組みなどの情報交換を行う、両地区合同での取組みなどについて意見交換を行う場を設ける。